

特別区消防団運営委員会の答申を踏まえた対応方針について

諮問事項

変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか

令和 8 年 2 月 1 0 日
葛飾区消防団運営委員会

審議期間：令和 5 年 8 月から令和 7 年 3 月まで（1 年 8 か月）

地域防災の要である消防団として、変化及び成長していくことが重要である。

汎例： ■ R 7 年度～ ■ 導入に向けた検討等 □ 継続して推進

項目	葛飾区 答申	特別区消防団運営委員会 対応方針
入団し活動を継続したいと思える組織の活性化方策について	1 団活動によりやりがいを持てる方策 団員自身がスキルアップできる訓練の継続・防火防災訓練や救命講習指導による地域貢献・費用弁償の増額等による活動環境の改善	■ 処遇改善のための費用弁償の増額 ■ 災害現場で有圧水利等に部署する際の可搬ポンプ運用要領の整備 ■ 消防救助機動部隊への視察研修の実施による意識醸成 □ 防災訓練や総合防災教育における都民指導の推進
	2 各種教養講座等の拡充及び多様な主体との協働による地域密着型講習の推進 <ul style="list-style-type: none"> 既存資格取得の拡充 新たな資格取得の拡充 既存講座の拡充 新たな講座の拡充 消防団協力事業所をはじめとした管内企業のノウハウを消防団活動に活かすための講習を行う 	■ 災害や火災予防等の防災知識の向上 （総合防災部と連携したアプリやマイタイムラインの普及等） ■ 可搬ポンプ実技講習の実施による消火活動力の向上と拡大の検討 ■ 機関員技術や各種資機材取扱い技術の新たな講習や研修の検討 □ 特殊技能団員や研修受講者による消防団内での教養の推進 □ 各区等と連携した消防団の地域貢献や協力事業所等の周知
最新の技術等を考慮した活動環境の改善方策について	1 D X の推進及び通信手段の強化 <ul style="list-style-type: none"> 災害への出場命令・専用アプリの導入 団員間の情報伝達 	■ 出場指令や各種連絡事項を個人スマホで受信できる消防団専用アプリの市場調査の実施による導入に向けた検討 ■ M C A 無線機の更新機種及び各種無線機類の配置の最適化に向けた検討
	2 タブレット端末を活用した事務の効率化 <ul style="list-style-type: none"> 消防団員の技能管理 各種報告書類の管理 	■ タブレット端末更新に合わせた音声マイニングツールや多言語ツール導入に向けた検討による利便性の向上 ■ 出場指令や各種連絡事項を個人スマホで受信できる消防団専用アプリの市場調査の実施による導入に向けた検討
	3 各種資機材の更新に合わせた身体的な負担の軽減と活動環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> 既存資機材の軽量化による負担軽減 新たな資機材整備 女性団員が活動しやすい環境の整備 	■ I S O 規格に準拠した新型防火服導入による安全性・機動力の向上 ■ 防火帽への階級標示シールによる消防署隊との連携強化の推進 □ 既存資機材の更新に合わせた軽量化・電動化や耐久性の向上 □ 女性団員が活動しやすい環境（施設・服制）の整備推進

活動力を地域で発揮していくことで、地域住民の負託に応え続けることが重要である。

汎例 : ■ R7年度～ ■ 導入に向けた検討等 □ 継続して推進

項目	葛飾区 答申	特別区消防団運営委員会 対応方針
消防力維持のための計画的な人材育成方策について	1 経験の浅い消防団員への教育訓練体制と訓練指導体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> 消防団員の能力や経験値に応じた消防活動の習熟 フェーズ・任務別行動 長年の消防団活動で培った知識や技術を持った団員を「訓練指導者」として育成する研修の実施 統一的な指導を図るための訓練指導マニュアルの作成 火災現場に対応できる段階的な訓練及び実戦的消防活動の総合的な効果確認の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新入団員への東京消防団 e-ラーニングシステムによる基礎教育の充実 ■ 災害現場で有圧水利等に部署する際の可搬ポンプ運用要領の整備 □ 火災出場時の確実な水利部署、積極的な消火活動の推進 □ 指揮幹部課研修終了団員による各消防団における訓練内容や指導体制等の主体的な検討促進 □ 実戦的な訓練の継続した推進
	2 地域特性を踏まえた実動訓練 <ul style="list-style-type: none"> 平時の災害を想定した活動訓練 大規模災害（震災・水災）を想定した活動訓練 	<ul style="list-style-type: none"> ■ C G 動画制作等による現場判断力や安全管理能力の向上 ■ 消防救助機動部隊への視察研修の実施による意識醸成 □ 方面訓練場や署訓練施設の活用等、地域特性に応じた実戦的な訓練の推進 □ 災害時における積極的な水利部署、下命に基づく放水活動の推進 □ 工夫した訓練の取組紹介による時勢に応じた活動の推進
地域に尽力している消防団の認知度向上と社会情勢に応じた入団促進について	1 将来を見据えた防災指導 <ul style="list-style-type: none"> 総合防災教育等の機会を捉え、若い世代の消防団への理解と浸透を深めていく 	<ul style="list-style-type: none"> □ 総合防災教育における消防団員講師による防災の普及啓発の推進 □ 防火防災訓練や総合防災教育における防火防災指導の推進 □ 防災訓練や総合防災教育における都民指導の推進
	2 積極的な地域交流と地域コミュニティとの調和 <ul style="list-style-type: none"> 地域で開催される各種イベントにおいて、行政や教育機関と連携した消防団の入団促進や理解度の浸透を図る 更なる入団促進に向けた消防団入団要件の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 声掛けによる募集広報の機会を更に創出するため、団員募集カードの導入 ■ 転居、転勤等により在団資格を失うこととなった場合においても継続して活動できる体制整備 □ 学校ネットワーク等を活用した地域連携への参画 □ 大規模災害団員の普及促進による入団促進・退団抑制 □ 総合防災部、各区等と連携した多角的な広報の推進 □ X（旧Twitter）、YouTube等のSNSを活用した消防団活動の募集広報の推進

葛飾区以外の答申及び対応方針

項目	主な答申	特別区消防団運営委員会 対応方針
訓練や都民指導の推進と負担軽減	○消防団行事の内容見直しや効率的な訓練による負担軽減	■ 新たな消防団点検の試行による団員一人ひとりの訓練機会の創出と負担軽減
	○防災や救急知識を活かした災害活動や訓練指導による地域貢献	■ 災害や火災予防等の防災知識の向上（総合防災部と連携したアプリやマイタイムラインの普及等）
教育訓練の改善	○実戦的な訓練・東京都大会・全国大会の実施方法の乖離による負担増に対する対応	■ 新たな消防団点検の試行による検証 □ 実戦的な訓練と操法訓練のバランスなど消防団による主体的検討
教材の充実	○東京消防団 e-ラーニングコンテンツの充実等ソフト面の強化	■ C G 動画制作等による現場判断力や安全管理能力の向上 ■ 東京消防団 e-ラーニングのコンテンツの更なる充実
募集広報の推進	○消防団体験の導入及び制度の構築	■ 特別区消防団トライアル（体験実習）の導入に向けた検討 ■ 各防災関係機関（日本郵政、自衛隊等）と連携した入団促進